

第1回 国史跡鈴木遺跡保存活用計画検討委員会 要録

1 日時

令和3年10月27日(水) 午後2時～午後4時

2 開催場所

鈴木遺跡資料館、鈴木小学校「古代のオアシス」、鈴木遺跡保存管理等用地

3 出席者

国史跡鈴木遺跡保存活用計画検討委員会委員：10人（欠席者なし）

事務局：島田課長、小川課長補佐、高田主任

オブザーバー：東京都教育庁化財担当職員1人

4 傍聴者

1名

5 配布資料

- ・議事次第
- ・資料(事前配布)
- ・『国指定史跡 鈴木遺跡たんけんマップ』
- ・『鈴木遺跡解説 旧石器時代の鈴木遺跡』
- ・アンケート用紙

6 次第

- (1) 報告 鈴木遺跡の概要と委員会の目的
- (2) 質疑応答
- (3) 現地視察 鈴木小学校「古代のオアシス」、鈴木遺跡保存管理等用地

7 会議の概要

<事務局報告>「鈴木遺跡の概要と委員会の目的」(略)

<質疑応答>

委員 鈴木遺跡といった時に、旧石器なのか縄文なのか時代がわからない。小平鈴木遺跡というだけでも、小平のPRになると思う。

事務局 鈴木遺跡という名称は、江戸時代の鈴木新田からの鈴木町という町名にちなんでおり、遺跡の名前として他にはほとんどない。鈴木遺跡は旧石器時代の遺跡として国指定史跡になったが、縄文から近世、近現代までの歴史の連続性の中で考えるべき。

委員 保存と活用について、これからは周知が大事だと思う。鈴木遺跡は貴重な遺跡とこのことだが、一般市民にとってイメージが湧きにくく、市民に知ってもらい、支えてもら

いながら計画を検討し、目的を達成させていくことが必要なのではないか。

事務局 デジタル技術なども活用しての周知、またインターネットを通じて遠方の方もそれを体験できるように、最近の技術を活用しながら進めていくことができると考えている。

委員長 この点は今回の保存活用計画の要と考えられる。旧石器時代の遺跡のあり方は目に見えにくく、この時代の史跡整備というのは始まったばかりで難しいが、エビデンスに基づいたものでなくてはならない。

委員 鈴木遺跡が国指定になったということは、小平市だけでなく、全国のレベルに達したということなので、例えば近隣の多様なウォーキングコースを歩く人たちへの PR も大事になってくるのではないか。

委員長 なかなか難しいかとは思いますが、皆さんで知恵を絞っていききたい。

委員 見るだけでなく、黒曜石の石器作りや当時にできるだけ近いやり方でのバーベキュー、当時の道具での槍投げ体験などを、特に子ども達の世代を取り込んでいくといいと思う。また、子どもたちからキャラクターを募集し、投票で選んでもらうなどの方法も有効なのではないか。

委員長 重要な指摘だと思う。他でもそうした試みはたくさん見られるが、担当職員で全部やるのは難しいので、ボランティアの組織とその養成を含めた将来的な展望が必要となる。そのためには、それを保存活用計画に書き込んでいかななくてはならない。色々な計画をたくさんできるだけ挙げておくことが必要となる。保存活用計画を作った後に、整備計画を作ることになるが、その根拠にもなるから、この段階でやりたいことを書き込んでいくことが重要となる。

委員 旧石器時代の鈴木遺跡では既に言葉があり、会話はしていたのか。また、地図もなく、道もほとんどないような時代に、どうやってこの場所に人が集まってこられたのか。

事務局 石器作り技術の広がり方などを見ても、当然かなり高度な意思疎通の方法はあったと思われる。遺跡へは石神井川を遡って、あるいは砂漠の中のオアシスのように遠方から緑の深い景観が望めるなどの理由で移動してきたと考えられる。

委員長 古多摩川の扇状地である武蔵野台地の旧石器時代の遺跡はこの付近に多い。標高 50～60 メートルのところには石神井川のような比較的小さい川の湧水点が並んでいて、遺跡が密集している。鈴木遺跡はその中心であると理解されたい。

事務局 この後現地視察を行うが、その結果も含め、これ以外の意見等があれば、机上に配布してあるアンケートでお送りいただきたい。

<現地視察>

<アンケート結果 要旨>

1. 今回の委員会の目的、運営、進行、資料等についての要望等

○鈴木遺跡全体の保存活用計画なのか、旧農林中金跡地の活用計画なのか、はっきりしない印象を受けた。

○「小平市の個別計画との関係」を読んで、本委員会で話し合われる鈴木遺跡保存活用計画が

多くの既存の計画と関係していることを知った。

- 保存活用のイメージが資料に含まれると意見が出やすい。
- 次回以降は具体的な検討に入るので、審議の時間を充分とっていただきたい。
- 次回の課題整理の対象はどこになるのか。
- 「たんけんマップ」は資料としてコンパクトで分かり易く、また、「たんけん」という言葉は子ども達の興味を引くと思う。
- 鈴木遺跡解説書を手にし、改めて学ぶことができた。
- 保存管理等用地に足を運び、現状がわかって良かった。

2. 次回以降の開催場所について

- 交通の便や出席者の間隔のことを考えると、市役所の本庁舎での実施がよい。
- 市役所開催の際もあまり広すぎない場所で、お互いの顔が見えるような形を希望する。
- 資料館での開催は立地を含め資料館全体の様子、距離の把握等にとっても有効であった。
- 資料館内の展示の説明や、遺跡の重要性を学ぶ研修もお願いしたいので、資料館でも開催していただくとありがたい。
- オンラインでの参加を許可いただきたい。

3. 鈴木小学校はじめ市内の学校等との連携について

- 遺跡との深いかかわりのある鈴木小学校での取り組みは重要だが、義務教育はもちろん、幼児教育、生涯教育（公民館講座等）、近隣大学との連携などを進めることが望ましく、保存活用計画に具体的に織り込む必要がある。
- 連携は高・大学なども入れた方がよい。
- 鈴木遺跡の保存・活用は、①学術的に貴重な遺跡の保存、②よりよい小平づくりに活かす、の両面の意義があり、そのためには教育との連携が重要。
- 鈴木小の生徒達には、遺跡の上で学んでいるとの認識を共有してもらい、小学校と「鈴木遺跡」を特別な関係とする。
- 小平八小も、学校の敷地や学区が遺跡範囲なので、鈴木小と同様に連携するとよい。
- 生徒たちが遺跡広場に自由にアクセスできる通路を設置してはどうか。
- 市内小学校には、3年生の社会科見学や課外授業・遠足で遺跡に来たり、高学年が鈴木遺跡のことを伝えるプレゼンテーションを作成したりするなどのカリキュラムを導入してはどうか。
- 遺跡学習は子どもたちの成長のよい材料であり、子どもたちが遺跡を知ることによって親世代の関心・認識が深まり、小平への誇りや愛着がわき、「ふるさと」としての小平意識が生まれる。またそれらによって、遺跡保存への市民の理解・支援が深まると期待できる。
- 市内小中学校における郷土資料室の有無を知りたい。
- 石器づくりや土器づくりなどの体験学習を行ってほしい。

4. 視察した古代のオアシス、鈴木遺跡保存管理等用地について

- 古代のオアシスは数年前と比べると、湧き水の量が少なくなった気がする。

- 実際に入ってみると想像していたものと大分違った。写真等で中の様子を伝えたり、一部は入れる場所を設けたりする等、現状を知ってもらうのも大事だと思う。
- 想像以上の広さに驚いた。歩道を整備し、“旧石器の森・たんけん”気分を味合わせるような場所とする。
- 遺跡保存上「できないこと」を事前に情報共有していただきたい。
- 日常的に市民が訪れ、放課後は子どもたちの遊び場になり、地域学習の場などとして、市内の各学校の児童・生徒の受け入れができるような場として整備されると良い。
- 鳥類・小動物の生態調査を実施してはどうか。
- ここで遊び、育った子どもたちが、この場所があるから大人になってからもここに住み続けたい、と思える場、憩い場、誇りをもって自慢できる場になってほしい。
- 敷地内の植物について、旧石器時代や縄文時代、それぞれを再現してはどうか。栗等も植えれば、秋には収穫祭もでき、旧石器時代や縄文時代、それぞれの生活を再現すれば、体験型の学習もできると思う。
- 大規模な遺跡現地が公有化されていることは保存・活用を進めるうえでの大きなメリットであり、遺跡について学ぶことができるだけでなく、遺跡の香りが漂う魅力ある憩いの広場であるのが望ましい。
- 観光資源的要素もあると思う。当時のイメージがわかるようにバーチャル（VR）等駆使して、先人の歴史を未来に伝えるように保存し、活用して欲しい。
- コンクリート土台を除去し、必要最小限のトイレや降雨時の東屋のような施設以外は原っぱのままがいい。
- 思っていたよりも広くて樹木が多く、なるべく早く解放してもらえたら名所になると思う。

5. その他の意見や要望について

- 小平市ウォーキングマップ・ルート④遺跡コースの一部変更が必要なのではないか。
- 遺跡に近い「茜橋」に専用の看板を設置して見学者を呼び込んではどうか。
- 玉川上水のウォーカー、野鳥カメラマンなどの立寄り・休憩場所（水道トイレ設備を含む）としてPRしてはどうか。
- 「鈴木遺跡を守る会」などを設立、関係者の継続的な交流の場を設ける必要がある。
- Z世代と呼ばれる若者たちの意見を聞き、SNSによる発信などの知恵を借りられると、より魅力的な場になると思う。
- 資料館ののぼり旗が増え、目を引いてとても良いと思う。
- 今年度の鈴木遺跡関連の予算で他に何か計画されていることがあれば教えてほしい。
- 総括報告書で作成したGIS等のデジタルデータを、今回の保存活用計画の中に盛りこんで活用してほしい。
- 「プレーパーク」を運営する人達との連携も検討してはどうか。